

耳鼻咽喉科ローテーション研修目標

耳鼻咽喉領域の病態・疾患を鑑別診断し的確な治療を速やかにおこなう能力を身につけるために

経験すべき病態・疾患・検査・治療

1．耳鼻咽喉科疾患を的確に鑑別診断するために

耳／鼻／咽頭／喉頭／頸部の解剖と生理について説明できる

耳鏡／鼻鏡／喉頭鏡／後鼻鏡による観察ができる

頸部の触診ができる

耳鼻咽喉科領域の Xp、CT、MRI の読影ができる

2．検査により鑑別診断を確定し治療を速やかにおこなうことができるために

聴力検査（標準純音聴力検査、語音聴力検査、ティンパノグラム、自記オーディオ、ABR その他）の適応を述べ実施に参加できる

平衡機能検査（自発眼振検査、頭位／頭位変換眼振検査、温度刺激眼振検査、視運動性眼振検査、その他）の適応を述べ実施に参加できる

内視鏡検査（軟性、硬性内視鏡、直達鏡）の適応を述べ実施に参加できる

唾液腺造影検査の適応を述べ実施に参加できる

透視による嚥下機能評価法の適応を述べ実施に参加できる

3．鑑別診断をすばやくするために経験すべき病態と疾患

急性・慢性副鼻腔炎

中耳炎（B）

アレルギー性鼻炎（B）

扁桃の急性・慢性炎症性疾患（B）

外耳鼻道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の異物

4．診察、検査よりなされた確定診断の基に的確な治療をおこなうために

急性感染症、慢性疾患の保存的治療を説明し実施できる

耳鼻咽喉頭の局所治療を述べ実施に参加できる

基本的な外科的処置（鼓膜切開、扁桃周囲膿瘍、等）の適応を述べ、実施に参加できる

5．処置が必要な病態に対し初期治療ができるように

鼻出血の止血が実施できる

耳痛の原因検索と救急処置ができる

めまいの診断と処置ができる

気道／食道異物の診断と治療ができる

6．基本的な耳鼻咽喉科疾患の手術適応を説明し実施に参加できる

気管切開、鼻茸切除術、等